

第13回 呉西圏域ビジョン懇談会 会議録

日 時：令和7年8月19日(火) 17時45分～18時45分

場 所：高岡市役所 802会議室

○開会挨拶

(とやま呉西圏域連携推進協議会 会長)

○第3期都市圏ビジョンの概要について

(事務局による資料説明)

○意見交換

(委員)

2期にわたり、6市連携をやってきて、ほぼ成果があったという評価になっているが、肌感覚として、呉西圏域が元気になったとかよくなったなっていうことが、あまり、実感できていない。様々なデータ等で検証された結果だと思うが、これまでの成果をどのように考えているのか。

(委員)

この呉西圏域の活性化は、圏域の中でどれだけ自由に動けるかということであると考えている。例えば、射水市のコミュニティバスが、高岡へ行ったり、砺波に行ったりするようなことがあるのか。東京では、JRや私鉄、都営も入り乱れるように電車が乗り入れていることで利便性が高まっている。県西部各市で、コミュニティバスを運行されているかと思うが、その市域の範囲で留まっているのではないか。

地鉄や加越能のバスが、市域をまたいで走っているが、本数が少なく、呉西エリアの住人の移動を担保するだけの便数や経路が網羅されていないのが現実だろうと思う。

(委員)

実施した結果は挙げることはできるが、どういう目的が達成されたかをしっかり検証しなければいけない。

手段についての成果はあるが、残念ながら目的が達成されておらず、手段が目的に結びついていないのであれば、その手段を設定したこと自体が正しかったのかどうかの検証を行うべき。

経済の活性化はなかなか難しいに決まっているが、経済活性化しなかったら、お金が動かない。依然として変わってこないところに、憤りを感じている。

(委員)

県の14歳の挑戦という事業に倣った高校生を対象にした「16歳の挑戦」事業の実施について、この呉西圏域で検討されているのか。

高校生がいろいろな職場を見ることによって、将来的に地元で根差した職業を志望する方が出てくる可能性もある。特に若い女性が流出しているが、我々の業界では、20代の女性2人、30代の女性1人が漁業者として従事していただいている状況。

国の補助金を活用した県研修として、3泊4日の就業体験を実施している。それを経験することによって、ミスマッチを防ぐことにつながる。自社ではこの就業体験を通して、高校卒業後に漁業に従事された方が4～5名いる。

第3期ビジョンにおいて、こどもまんなかに取り組むのであれば、中学生や高校生のときに体験できる機会づくりに取り組んではいかかがか。職業体験だけでなく、防災に関してAEDの使い方など、体験プログラムの一環として実施できればよいと考えている。

(委員)

ビジョンに記載されている「こどもまんなか」はどのように定義しているのか。

高校生もこどもであるため、誤解されないように記載いただきたい。

(委員)

昨年から、隣接している砺波市、南砺市の観光協会がいろんな形での連携に向け、いろいろ会議を積み重ねている最中。一方で、射水市の観光関係の団体とは直接お話しする機会がないのが現状。

今後、連携の実現化や呉西エリアをどのように盛り上げていけばよいかなど、観光に携わる6市のそれぞれの団体が一堂に集まり、現場の意見を集約していく努力も必要かと思う。

今までは各市の行政サイドで対応してこられたとは思いますが、私たちも意見を言うだけでなく、現場のサイドである6市の商工会や商工会議所が集まり、観光分野などの個々の分野で実現させるためにはどうすればいいかという話し合いの機会もあってもいいのではないかと。

(委員)

呉西観光誘客推進事業の中で、インバウンド等向けの商品開発とあるが、現在もそれぞれの市や本圏域でも活動している中で、さらなるインバウンド等を対象にした観光客の誘客を図るためには、呉西圏域だけでは対応することは困難であり、富山県との連携を強化しないといけないと思う。

現在、富山県では立山・黒部アルペンルートを中心とした呉東エリアの観光プロモーションが大変活発で、呉西エリアには力が入っていないように感じている。

富山県との連携強化に向けた取組の拡充の中に、インバウンド対策を始めとした観光分野も入れていただけないか。

また、観光マーケティングの強化については、観光客の流れを把握することが重要だと考えている。6市それぞれでデータ収集等を行っているが、各市の中で完結してしまっているのではないか。観光客の人流データを6市連携で検証することが大事で、その調査データをもとにしっかりとしたプロモーションを実施していただきたい。

○閉会挨拶

(夏野元志委員・とやま呉西圏域連携推進協議会 副会長)

○閉会

(終了 18:45)